

〈すずき なおみち〉
埼玉県出身。高校卒業後、99年4月東京都庁入庁。2004年法政大学法学部法律学科卒業(都庁に勤めながら4年間で卒業)。08年夕張市へ派遣。10年4月内閣府地域主権戦略室へ出向、夕張市行政参与。同年11月東京都庁退庁。11年4月夕張市長選に出馬、2期当選。19年2月夕張市長辞職。同年4月北海道知事選に出馬、当選。現在2期目。



〈カメラ・守澤 佳崇〉

新春インタビュー

2026年をデザインする

ポテンシャルから 具体化の局面に進展 北海道の価値を押し上げる

北海道知事
鈴木 直道氏

票日前日までの17日間の運動期間にできるだけ多くの市町村を回りましたが、本当に北海道は広いです。これまでの2回の選挙、家族での訪問と、「なまみちカフェ」を合わせて、今は179市町村を回る4周目に入っている状況です。

最近は、一つひとつ訪問場所ができるだけ時間をとつて、地域の皆さんとじっくりお話しできるよう心がけています。

どんなに素晴らしいことに取り組んでいても、そのこと 자체を引きだけ多くの人に知つていただかない、なかなかその価値は伝わりません。地域の魅力を広く伝えていくため、「現場主義」のもと、

道内外、さらには海外へ向けて発信したいと考えています。

—どのような手段で発信し、どのように意識していますか。

私が知事に就任してから、北海道庁として、XやFacebookの統一的な対応や、新たにインスタグラムの公式アカウントを開設しました。それぞれの部局でもアカウントをとっていますし、YouTubeで動画も発信しています。定例の記者会見なども、ご質問とそれ以外の部分をパート分けしたり、見る方が見やすいように工夫を凝らしています。マスコミの皆さんから、ご要望をいただきながら改善を重ねています。

最近では、ほとんど

— 鈴木知事は1期目から、「地域がもっと輝く」北海道の実現に向け、自ら積極的に地域に足を運ぶ「なまみちカフェ」を行っています。まずはその思いをお聞かせください。

北海道には179市町村があります。それぞれの市町村で多くの取り組みが行われてお

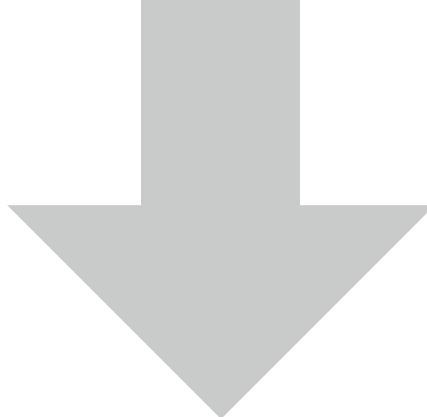
り、知事として直接その現場にお伺いして、皆さんのお話を聞く「現場主義」を大切にしています。これは各種の施策を推進する上でも、またその地域の魅力を私自身が発信する上でも、とても重要なと考えています。

私が経験した知事選挙では、告示日から投

「現場主義」を大切にする考え方

「地域の発展なくして、北海道の発展なし」。鈴木直道知事はかつて職員訓示でこう述べていた。この考えは今も変わりはないだろう。だからこそ、できるだけ地域を訪れ、情報発信に努めている。次世代半導体やG×産業など「日本全体の中で北海道が果すべき役割は大きい」と言われるなか、その効果をどう地域に波及させていくのか。

(取材・11月20日、道庁特別応接室)



**続きは『月刊クオリティ』本誌を
ご覧ください。**

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから
TEL 011-644-0101
(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)